

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>克己の徳を備えた人間力豊かな生徒の育成</p> <p>1 志を持ち、それを叶える確かな学力が身につく 2 自らを律し、何事も率先して自ら行う力が身につく 3 自他を思いやり、他と協力する力が身につく 4 「地域探究の時間」の発展・充実</p>	<p>今年度の重点目標</p>	<p>1 志を持ち、それを叶える確かな学力が身につく ①進路目標の明確化 ②基礎学力の向上 2 自らを律し、何事も率先して自ら行う力が身につく ①基本的生活習慣の確立 ②生徒会活動・部活動の充実 3 自他を思いやり、他と協力する力が身につく ①学校行事・学級活動の充実 ②安全意識・安全技術の向上 4 「地域探究の時間」の発展・充実 5 業務改善の取組の推進 ①業務の精選と組織的な実施 ②生徒への適切な対応</p>
---------------------------	--	-----------------	--

評価基準 A: 十分達成 [90%] B: 概ね達成 [70%程度] C: 変化の兆し [50%程度] D: まだ不十分 [35%程度] E: 目標・方策の見直し [20%以下]

年 度 当 初				評 価 結 果 (3月)			
評価項目	評価の具体項目	目標(年度末の目指す姿)	現状(令和2年度実績等)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
志を持ち、それを叶える確かな学力が身につく	進路目標の明確化	<p>○キャリア教育の体系的な推進がなされ、入学時から進路探究の機会が充実している。</p> <p><指標> 1年: 全員が具体的な進路目標を1つ以上掲げる。 2年: 3つ以上の進路候補について比較・調査を行う。 3年: 具体的な進路先について志望理由書を完成させ、進路実現する。</p>	<p>○入学当初は進路目標が不明確な生徒が目立つが、総合的な探究の時間(地域探究や進路探究)を通して進路目標が明確になる生徒が増える一方で、進路目標が明確にならない生徒が若干見られる。 ○進路目標が明確な生徒でも、進路目標を実現するための具体的な活動が取り組みができない生徒が一部に見られる。 ○3年次になると、主体的に志望理由書を完成させる生徒が多いが、面接練習に消極的な生徒も見られる。</p>	<p>○「総合的な探究の時間」を見直すとともに、学習後の振り返りを通して自己理解を促し、将来の目標設定につながる活動となるよう努める。 ○進路志望調査の回数を増やし、生徒一人ひとりの進路志望の変化を把握し、面接週間における面接を通して進路目標を明確にするよう指導する。 ○学年会や進路検討会を通して、生徒一人ひとりの模試成績や学習状況を踏まえ、適正な進路目標をアドバイスできるよう努める。</p>	<p>○「総合的な探究の時間」は新型コロナ感染症拡大によるフィールドワークの制限やリモート形式による校内発表会など変更点が多々あったが、臨機応変に対応し、発表・まとめまで行い、目標設定の一助になった。 ○進路志望調査については1・3年が2回、2年が3回実施し、面接や進路検討会を通して進路目標を明確にするよう指導した。</p> <p><R3実績> 1年: 多くの生徒が具体的な進路目標を1つ以上掲げている。 2年: 3つ以上の進路候補を掲げることができた生徒3割 3年: 具体的な進路先について志望理由書を完成し、ほとんどの生徒が1月末時点で進路実現できている。</p>	B	<p>○次年度は「総合的な探究の時間」やLHRの年間計画を各分掌と協議した上で作成し、探究心や学習意欲を高める中で、早期に進路目標を設定するとともに、目標達成のために生徒が自ら具体的な取り組みを行うよう指導する。 ○次年度も進路希望調査を計画的に行い、面談や学年会、進路検討会で情報共有し、組織的な進路指導を行う。</p>
	基礎学力の向上	<p>○どの生徒も授業を大切にし、主体的に授業に取り組んでいる。</p> <p><指標> 1年: 到達度テストの結果をもとに指示したスタディサブリに60%以上が取り組む。 2年: 家庭学習を平日1時間、休日2時間行う生徒が60%以上となる。 3年: スタディサポートでDゾーンの生徒が40%以下となる。</p>	<p>○落ち着いて授業に取り組む生徒が多い中、学ぶ意義が見いだせない生徒が一部に見られる。 ○授業の予習・復習の取り組みが不十分なために、家庭学習の習慣が身につけていない生徒が目立つが、課題等の提出率は比較的高い。 ○考査に向けて前向きに取り組む生徒が多いが、遅進者指導を行っても成果の出づらい生徒も見られる。 ○模試の活用目的が理解できず、模試に対する取り組みが甘い生徒が見られる一方で、支援をすれば意欲的に取り組む生徒も見られる。</p>	<p>○授業第一主義を説諭するとともに、総合的な探究の時間の振り返りを通して学習意欲を喚起する中で、授業を通して教科書の基礎・基本の徹底を図る。 ○教科会や学年会で日頃の授業の状況を共有し、学ぶ雰囲気醸成に努める。 ○スタディサポートの課題の取り組みやスタディサブリの課題や動画・確認テストを計画的に配信することを通して、家庭で学習する習慣付けと弱点の補強に努める。 ○考査を通して、日頃の授業の理解と定着度を生徒自身に把握させるとともに、授業の振り返りと改善を行う。</p>	<p>○「分かる」授業の実践や「総合的な探究の時間」の地域探究を通して学習意欲が高まる生徒が見られる一方で、課題の出し方や量の検討が不十分で、家庭学習に結びつかない面があり、「できる」段階の生徒が少ない。 ○スタディサブリの課題や動画配信を行い、授業の復習や家庭学習を促す取り組みを行う教科が増えたが、到達度テストの結果を受けての学習指導について検討する必要がある。</p> <p><R3実績> 1年: 到達度テストの結果をもとに指示したスタディサブリに69%が取り組んだ。 2年: 家庭学習調査を平日1時間、休日2時間行う生徒は9月11%、11月37%。 3年: スタディサポート(4月)でDゾーンの生徒は61.0%。スタディサブリの到達度テスト(10月)の3科(国数英)平均の正解率は60%。</p>	C	<p>○引き続き生徒の学習意欲を喚起する授業づくりに努め、より確かな学習内容の定着を目指す。(例: ICTを活用しながら、調べ学習や実験・観察・発見型の授業を行う。問題解決に向けた話し合いや発表する場面を設定する。) ○授業の理解をより確かにするための課題の出し方や量を学年・教科で検討し、家庭習慣の確立に努める。 ○スタディサブリの活用について総括を行い、更なる効果的な活用法を検討し、学力の向上を目指す。</p>

評価基準 A:十分達成 [90%] B:概ね達成 [70%程度] C:変化の兆し [50%程度] D:まだ不十分 [35%程度] E:目標・方策の見直し [20%以下]

年 度 当 初				評 価 結 果(3月)			
評価項目	評価の具体項目	目標(年度末の目指す姿)	現状(令和2年度実績等)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
	基本的生活習慣の確立	<p>○より高い生活習慣及びマナーやモラルを身につけ落ち着いて生活できている。</p> <p><指標> ・年間遅刻者数(正当な理由・連絡がある者を除く)が生徒数の70%以下となる。 ・頭髮・服装指導対象者数、問題行動指導対象者数が前年度よりも減少している。</p>	<p>○昨年度は、遅刻指導や服装指導を行う場面が多かった。今年度は、家庭連絡を行い、基本的な生活習慣の確立・遅刻の減少・授業規律・服装容儀・公共マナーの徹底に向けて学校を挙げて取組もうとしている。</p> <p>○教室内の整理・整頓は生徒会の協力もあり、実施できてきている。</p> <p><R2実績> ・年間遅刻者数(正当な理由・連絡がある者を除く)は生徒数の80%。 ・頭髮・服装指導対象者数(実績なし)、問題行動指導対象者数(22件42名)</p>	<p>○5Sの徹底。(整理、整頓、清掃、清潔、躰)</p> <p>○遅刻・服装・不要物など各指導票を活用する。同時に家庭連絡を入れる。</p> <p>○教室や公共の場所からの私物の撤去及び整理整頓を徹底する。</p> <p>○基礎・基本の徹底等、SHRなどでのタイムリーな指導をする。</p>	<p>○クラス担任、生徒会の協力も得ながら、整理整頓等に努め、教室内の整理整頓が継続できている。</p> <p>○指導票の活用とともに、保護者への連絡を行いながら、生徒指導を進めている。服装検査での指導件数は減少してきているが、服装検査時以外で化粧・スカート丈で指導を受ける生徒は依然としている。生徒の問題行動等では、指導を繰り返し受ける生徒がいた。</p> <p>○遅刻者数は、2年生3年生とも昨年度に比べ、遅刻件数が増えている。</p> <p><R3実績(～1月末)> ・年間遅刻者数(正当な理由・連絡がある者を除く)は生徒数の102%(353件) ・問題行動指導対象者数は、前年度よりも減少。(10件30名)服装検査指導対象者数(頭髮・服装・化粧)は、204件(1月末)。</p>	C	<p>○学年が上がると遅刻件数が増加する傾向があり、服装指導と合わせて基本的な生活習慣の徹底を、学年団と協力して声かけを継続していく。</p> <p>○保護者との連絡を機を逃さず行い、生徒自身の個々の物事に対する考え方の改善を図る。(基本的な生活習慣の確立・マナー、モラルの向上)</p>
自らを律し、何事も率先して自ら行う力が身につく	生徒会活動・部活動の充実	<p>○どの生徒も生徒会活動に主体的に参加し、成功体験を通して達成感を得ている。また、学校生活や行事の中で、リーダーシップを発揮し企画運営なども自主的に行う生徒が増えている。</p> <p>○志を持ち夢を叶えるための競技力と精神が身についている。自ら考え取り組むことで、集中力を高め、効率的な部活動を実践している。体育コースの生徒は、講演会や講習会を通して、トップアスリートを目指す意識レベルを高めている。</p> <p><指標> ・生徒アンケート「学校行事に積極的に参加している」で評価AとB合わせて90%以上となる。 ・県大会優勝6部以上。全国大会出場8部以上、全国大会出場者数のべ150名以上となる。</p>	<p>○わずかだが興味を示さず人任せになる生徒がいる。執行部員、実行委員はリーダーシップを発揮できるようになってきたが企画運営の部分が弱い。</p> <p>○部活加入率1年99%、2年76%、3年87%。2年の加入率が低い。また、運動部80名に対し文化部は2名である。</p> <p>○昨年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、全国大会等が中止になり、出場機会が少なかった。</p> <p>○体育コースの上級学校進学者は20名あるが、そのうち競技を継続する生徒は10名であった。</p> <p><R2実績> ・生徒アンケート「学校行事に積極的に参加している」83%。 ・県大会優勝3部、中国大会優勝1部、全国大会出場資格取得2部、全国大会出場(リモート含む)6部、全国大会出場者数(リモート含む)67名</p>	<p>○行事におけるクラス内での係りの仕事を共有できるようクラスに提案する。</p> <p>○新聞部発行の新聞にコーナーを作ったり掲示板及び掲示物で目的を全校生徒に伝えるための工夫をする。</p> <p>○担任を通し部活未加入者にボランティアなど参加するよう促してもらう。</p> <p>○高校で競技を終えることのないよう、更なる可能性を見出す指導と高い志の育成、将来指導者となる人材の育成を行う。</p> <p>○スポーツ・文化芸術活動重点校として、体育コースの取組である「各種講演会・講習会」を通し、競技力の向上に繋げていく。</p>	<p>○行事関係はLHRを増やすことでおむねできた。委員会(生徒会活動)の動かし方を考える必要がある。</p> <p>○新聞発行時にその時に合った内容を生徒会として継続して掲載できた。</p> <p>○部活未加入者数の把握は行っているが、ボランティア参加等を促すに至っていない。</p> <p>○3年体育コース(35名中)上級学校へ進学希望24名、うち11名が競技継続予定。体育・スポーツ系の上級学校進学者5人。</p> <p>○1年体育コース環太平洋大学研修(日帰り)では、上級学校や競技に対する意識付けを行うことができた。新型コロナの影響で予定していた講演会等未実施。</p> <p><R3実績> ・生徒アンケート「学校行事に積極的に参加している」95%。 ・県大会優勝9部。全国大会出場8部、全国大会出場者数のべ136名。</p>	B	<p>○来年度も育英祭など行事前のLHRの回数を確保する。</p> <p>○来年度も校内新聞及び生徒会の放送を実施し、学校行事や生徒会活動への参画意識を醸成する。</p> <p>○学級減を見据えて、充実した活動が維持できるよう、部活動を精選する。</p> <p>○新型コロナ対策に対応した各種行事の実施方法を考える。例)長期休業中の実習の可能性。日帰りの実習。工夫し充実した部活動。</p> <p>○体育コースの生徒の進路について、部顧問と担任団が連携を取り、2年生の段階から取り組ませる必要がある。</p>

評価基準 A:十分達成 [90%] B:概ね達成 [70%程度] C:変化の兆し [50%程度] D:まだ不十分 [35%程度] E:目標・方策の見直し [20%以下]

年 度 当 初				評 価 結 果(3月)			
評価項目	評価の具体項目	目標(年度末の目指す姿)	現状(令和2年度実績等)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
自他を思いやり、他と協力する力が身につく	学校行事・学級活動の充実	<p>○どの生徒も学校行事やLHRの活動を通じて、他者との協調性や思いやりを身に付けるなど、人間力の向上が見られる。</p> <p>○体育コースの生徒は、各種実習を通して、集団生活での協力・協調性を身につけている。</p> <p><指標> ・生徒アンケート「学校行事やLHRの活動を通じて他者との協調性や思いやりを身につけることができている」で評価AとB合わせて90%以上となる。</p>	<p>○部活動中心または、自己中心的な生徒がおり、全員参加で、ともに協力し全員で行事を作り上げることが出来ていない。</p> <p>○体育コースの生徒が、部活動の面でリーダー的な役割を果たしている。学校生活においてもリーダー的な役割を果たしていく必要がある。</p> <p>○昨年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、「講演会」が実施できなかった。また、「各種実習」も宿泊の制限があった。</p> <p><R2実績> ・生徒アンケート「学校行事やLHRの活動を通じて他者との協調性や思いやりを身につけることができている」91%。</p>	<p>○育英祭などクラスの運営委員にクラス全員で協力できるよう方法を説明する。</p> <p>○「各種実習」を実施し、人間性や協調性を養う。</p> <p>○定期的に体育コース集会を開き、体育コースの一員として、自覚ある行動及び習慣を身に付けさせる。</p>	<p>○育英祭では、実行委員を中心に生徒自身が考え運営委員に周知徹底できるように動いていたので、当初の目的は概ね達成できた。</p> <p>○球技大会の新しい取り組みに対し、執行部員が意見を出し合い、クラスに伝達できた。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症拡大のため3年生の「キャンプ実習」は中止となり、「ゴルフ実習」を2会場に分け、2日間の実習とした。2年生の「スキー実習」も1月の開催を中止とし、代替種目や日程を調整している。</p> <p>○3学年合わせての体育コース集会は実施できなかった。</p> <p><R3実績> ・生徒アンケート「学校行事やLHRの活動を通じて他者との協調性や思いやりを身につけることができている」94%</p>	A	<p>○育英祭に向けては、実行委員と運営委員、生徒同士が意見を言い合える時間を確保する。</p> <p>○学校行事(生徒会が関わるもの)を行うに当たっては、事前にアンケート等で生徒の意見を拾うようにしていく。</p> <p>○新年度当初の体育コース集会をはじめ、定期的な体育コース集会で「規範意識」「行儀」について指導する。</p>
	安全意識・安全技術の向上	<p>○生徒が安心して学校生活を送ることが出来る環境作りに取り組んでいる。</p> <p><指標> ・生徒アンケート「学校は、いじめや差別を許さない人権意識のもと一人ひとりを大切にする教育を行っている」、「学校は、生徒の心身の悩み等の相談に適切に対応している」で評価AとB合わせて90%以上となる。</p>	<p>○体育の授業や部活動で、安全への意識の向上と安全対策の徹底に取り組んでいる。学校生活全般においても事故防止に努め、安全対策の徹底を継続的に図る必要がある。</p> <p>○様々な個性を持った生徒がおり、一人一人の個性に応じた「学び」が保障される必要がある。</p> <p><R2実績> ・生徒アンケート「学校は、いじめや差別を許さない人権意識のもと一人ひとりを大切にする教育を行っている」83% ・生徒アンケート「学校は、生徒の心身の悩み等の相談に適切に対応している」79%</p>	<p>○教職員及び生徒(部活動各部門)対象の救急救命講習を実施し、全員の受講をめざす。</p> <p>○いじめ防止基本方針に沿った「学校生活に関する調査」を定期的実施し、組織的な対応を図る。</p>	<p>○救急救命講習は、コロナ感染防止対策のため、例年の日程の夏季休業中には実施できなかったが、冬季休業中に実施した。</p> <p>○「学校生活に関する調査」は、1学期に2回(5月・7月)、2学期に1回(9月)実施し、3学期にも1回の実施を予定している。その結果は、環境保健部と各学年で情報を共有し、その後の面接指導等に活用した。</p> <p><R3実績> ・生徒アンケート「学校は、いじめや差別を許さない人権意識のもと一人ひとりを大切にする教育を行っている」91% ・生徒アンケート「学校は、生徒の心身の悩み等の相談に適切に対応している」89%</p>	A	<p>○次年度も、避難訓練等の機会を捉えて、様々な災害、負傷等への対応の周知を図り、安全確保の徹底に努める。</p> <p>○救急救命講習については、この講習が導入された経緯・趣旨を踏まえて、教職員・運動部部員の全員受講を目指して継続していく。</p> <p>○「学校生活に関する調査」は、次年度も各学期に1回を目処に実施し、生徒の実態把握に努めるとともに、環境保健部と各学年との連携を密にし、日常的な保健・相談業務を継続していく。</p>
「地域探究の時間」の発展・充実	「地域探究の時間」の発展・充実	<p>○2年生を中心に全校生徒が「地域探究の時間」に取り組み、地域に関する関心が高まっているとともに、コミュニケーション力、探究学習力、プレゼンテーション力を身につけている。</p> <p><指標> 1年:「地域探究入門」の事前・事後アンケートで、TMT「地域探究で身につけたい力」の自己評価の高まりが全項目で見られる。 2年:「地域探究」の事前・事後アンケートで、地域貢献に対する志などの高まりが平均して10%以上向上する。 3年:「地域探究」の学びが進路実現につながったと自己分析する生徒が学年全体の50%以上となる。</p>	<p>○1年次は「地域探究入門」を通して、地域への興味関心が地域の資源やその魅力を再考することやテーマ設定の仕方・探究活動を行う上での分析法や資料のまとめ方について意欲的に取り組む生徒が多いが、自己の課題と捉えられない生徒も若干見られる。</p> <p>○2年次はテーマごとのグループに分かれ、探究意欲が高まり、主体的に探究活動に取り組む生徒が多いが、グループ活動がゆえに一部に他人任せにする生徒が見られる。</p> <p>○3年次は2年次の「地域探究」の活動を活かし、進路目標に向かって前向きに取り組む生徒が多いが、進路目標が不明確なまま活かしきれない生徒が若干見られる。</p> <p><R2実績> 1年:実績なし 2年:「地域探究」の事前・事後アンケートで、地域貢献に対する志などの高まり 11%向上。 3年:実績なし</p>	<p>○1年次から「キャリアパスポート」の取り組みと合わせて、学習目標の設定や振り返りをさせることで、生徒の視野を広げたり、身についた力を把握させ、具体的な将来設計を描くよう指導を行う。</p> <p>○年間計画を生徒・教員に周知し、時期・やるべき内容に見通しを立てながら計画的に進める中で、進路志望調査や面接(面接週間)の機会を捉え、進路実現に向けた具体的な取り組みができるよう指導を行う。</p> <p>○生徒が身につけた力について、SMT(※)で確認しながら指導・改善を行う。</p> <p>※SMT:進路探究で身につけたい力 S M T</p>	<p>○年間を通じて適宜自己評価アンケート調査、キャリアパスポート記入による振り返り等を行い生徒自身が自己の成長を意識した取組みを行った。</p> <p>○活動の後半部分の成果発表の各場面で中止・延期が相次ぎ生徒の達成感に伴う成長が不十分となってしまった。年度末に向け残された期間で可能な限り可能な形で代替活動を行う予定。</p> <p><R3実績> 1年生:事後アンケートは3月上旬実施予定 2年生:事前・事後アンケートで、地域貢献に対する志などの高まりが平均して13%向上。 3年生:「地域探究」の学びが【進路実現につながった】と自己分析する生徒は学年全体の46%。 【地元の魅力をたくさん知った】89%。 【地元で働きたい・暮らしたい】69%。</p>	A	<p>○1年次の探究入門活動での探究の基礎学習を、新教材導入などを行い充実させより一層3年間の探究活動の教育的効果を高めていく。</p> <p>○リモート活動等の代替活動予定を常に予定し計画立案を行い、コロナ禍状況の影響を最小限に食い止める。</p> <p>○今年度の各生徒自己評価アンケート調査結果を教員間で分析するとともに、今年度末行う探究活動教員研修で得た手法を最大限活用し一層の教育的効果を高める。</p>

評価基準 A:十分達成 [90%] B:概ね達成 [70%程度] C:変化の兆し [50%程度] D:まだ不十分 [35%程度] E:目標・方策の見直し [20%以下]

年 度 当 初				評 価 結 果 (3月)			
評価項目	評価の具体項目	目標(年度末の目指す姿)	現状(令和2年度実績等)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
業務改善の取組の推進	業務の精選と組織的な実施	<p>○全教職員が月45時間、年360時間以内の時間外業務を遵守して、質の高い業務を行っている。</p> <p><指標> 全教職員が月45時間、年360時間以内の時間外業務を遵守している。</p>	<p>○部活動においては、昨年度前半は新型コロナウイルス感染症の影響により活動自体できなかつたり、大会が中止されたりしたため、時間外勤務の時間が随分縮減された。</p> <p>○放課後の学習会やPTA関係の会、土日の出張等、可能な限り振替対応をした。</p> <p><R2実績> 年間の時間外業務360時間を超えている教職員は2割程度。(令和元年度より約1割減)</p>	<p>○部活動の年間計画及び月間計画の見直しを各部が行うとともに、日ごろから生徒が自ら考えて活動するように、定期的に部会をもつなどして、活動の効率化を図る。</p> <p>○各種委員会のメンバーの見直しをし、会議の効率化を図る。</p> <p>○教職員のシステム入力を徹底し、時間外業務時間を教員自身が認識する。</p>	<p>○部活動において、日頃から生徒が自ら考えて行動するように、定期的に部会をもつことなど心掛けた。</p> <p>○会議の効率化を図るため、年度当初に各種委員会のメンバーを見直した。</p> <p>○教職員のシステム入力を徹底し、時間外業務時間を教員自身が認識するよう働きかけた。なお、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により部活動の時間が制限されたこともあり、時間外業務時間が減った。</p> <p><R3実績(4月～1月)> 年間の時間外業務300時間を超えている教職員は1割弱。(1月末までの実績のため、指標「360時間」を「300時間」でみています)</p>	B	<p>○県教育委員会の取組と連携し、教職員のシステム入力をさらに徹底し、時間外業務時間を教員自身が日々確認することで、見直しを持ちながら業務に当たるよう呼びかける。</p> <p>○引き続き、部活動の年間計画及び月間計画の見直しを各部が行うとともに、日ごろから生徒が自ら考えて活動するように、定期的に部会をもつなどして、意識や意欲を高め、限られた時間内での活動の効率化と質の向上を図る。</p> <p>○今後の学級減及び教員定数減も見通した部活動数の見直しを進めて、顧問の複数配置を行い、部活動業務の役割分担を確実にすることで、時間外業務に偏りがないようにする。</p>
	生徒への適切な対応	<p>○3年生の進路指導(教科・面接指導等)において、計画的・組織的に対応し、時間外業務の上限を遵守することを通して、生徒自身に進路実現に向けて必要な態度や能力を身に付けさせる。</p> <p><指標> 3年生の受験シーズン期(9月～12月)における時間外業務で、月45時間を超過する教職員の数が前年度の半数以下となる。</p>	<p>○進路指導の分掌や3年団、生徒との個別の関わりのある教員を中心とした進路指導(教科・面接指導等)を行っている。生徒の実態を考えると、面接や志望理由書など、ある程度教職員の手入れをせざるを得ない状況であり、かなりの時間を費やしている。見方を変えると、取組の主体が教職員となっており、生徒が教職員に依存しきっているとも言える。</p> <p><R2実績> 3年生の受験シーズン期(9月～12月)における時間外業務で、月45時間を超過する教職員の延べ数 33人</p>	<p>○3年生の進路指導(個別指導)の組織的に行う体制作りに向けて、小論文や面接に関する教員研修を行う。</p> <p>○3年担任団には、夏休みに入るまでに、進路指導に関する年間スケジュールを提示して、生徒対応を計画的に行えるようにする。</p>	<p>○3年生の進路指導(個別指導)を組織的に行う体制作りに向けて、昨年度以上に、ほとんどの教職員を推薦入試に向かう生徒の指導担当に付けることで、教職員一人が担当する生徒の数を少なくした。また、小論文や面接に関する資料を適宜配布し、アナウンスを行った。</p> <p>○3年担任団には、夏休みに入るまでに、進路指導に関する年間スケジュールを提示して、生徒対応を計画的に行えるようにした。</p> <p>○教職員が意識して、生徒の自主性を引き出すような進路指導(個別指導)を心掛けた。</p> <p><R3実績> 3年生の受験シーズン期(9月～12月)における時間外業務で、月45時間を超過する教職員の延べ数 6人</p>	B	<p>○引き続き、3年生の進路指導(個別指導)を組織的に計画的に行えるよう、適宜教員研修を行ったり、進路指導に関する会議を充実させたりする。</p> <p>○生徒が自ら進路について考え、実現できる力をもつよう、本校のキャリア教育の全体計画を整え、実践していく。</p>